

院内文書の電子化保存をインポートセンターで徹底管理 文書電子化作業の正確性・効率性 向上を支えるPFUのスキナー



順天堂大学医学部附属浦安病院（以下、順天堂大学浦安病院）は、2015年の電子カルテ移行を機に院内文書のペーパーレス化に取り組んでいる。院内文書の電子化を担うインポートセンターをはじめ、外来受付で職員の業務効率化に向け運用されているのがPFUのスキナーである。



(左) 順天堂大学医学部附属浦安病院 診療録管理室 課長補佐 市原 直子 氏
(中央) 同 情報管理室 課長補佐 米山 桂一 氏
(右) 同 診療録管理室 主任 吉田 友美 氏

紙文書の電子化に向け インポートセンター設置

1984年に開設された順天堂大学浦安病院（785床）は大学附属病院としての機能を持ちつつ、千葉県東葛南西部医療圏の基幹病院の役割を担い救命救急医療、災害拠点病院として地域住民のために良質な医療を提供することに重点を置いている。また、地域の医療機関との病診連携や病病連携にも注力し、地域医療ネットワークの要となるべく務めている。

同病院は長年にわたりフルオーダーリングシステムと紙カルテ運用を続けてきたが、2015年に電子カルテへ移行。その際に診療情報をはじめ、様々な文

書情報の電子化保存を実現すべく、医療機関向け文書管理システムで保管・運用する環境を整備した。そのときから、外来や病棟で発生するあらゆる紙文書の電子化（PDF化）作業を一括で行う「インポートセンター」を診療録管理室内に設置し、運用を開始した。

このときに導入されたのがPFUの業務用イメージスキナー「fiシリーズ」である。インポートセンターには様々な読み取りニーズに対応するA3フラットベッド付きモデル、外来受付にはA4対応コンパクトモデルが複数導入された。

「当時導入したベンダー製文書管理システムのスキナーとして導入実績

が高かったPFU製のスキナーを採用しました」（情報管理室課長補佐の米山桂一氏）。

その後、2023年末に病院情報システムのリプレースが行われ、それに合わせてfiシリーズも後継機種に刷新された。

月間約8万3000枚に上る 紙文書をスキャン

現在、インポートセンターではA3フラットベッド付きモデル「fi-7700」が4台、各外来受付の窓口・バックヤードでは20台のA4対応コンパクトモデル「fi-7030」が運用されている。46診療科の外来受付は、関連する複数の診療科グループごとに配置されており、そ



インポートセンターに設置された4台のfi-7700は、勤務時間中フル稼働状態でスキャン作業が行われている



インポートセンター6人の職員のうち、4人がスキャン作業を、2人が前工程作業を行う他、スキャンした原稿のダブルチェックを担っている

れら受付のほぼすべてでコンパクトモデルが導入されている。

インポートセンターでは基本的にすべての紙文書をスキャンしている。外来で発生した紙文書は各外来の回収ボックスから定時回収され、病棟で発生した紙文書は逐次インポートセンターに届けられ、外来担当・病棟担当それぞれ3人の職員がスキャン作業にあっている。

一方、外来受付に設置されたスキナーでは、外来担当医師が診療の際にすぐ参照したい文書（問診票、お薬手帳のコピー、紹介状など）をスキャンしている。ただし、外来受付でスキャンされた文書もインポートセンターに送られ、患者・文書種別などが正確に登録されているかインポートセンターで確認している。インポートセンターおよび外来受付でスキャンされる文書は、合計で月間約8万3000枚に上る（インポートセンター：約7万8000枚、外来・その他：約5000枚）。

最も大量の文書は同意書・同意説明書だ。「先月は8000件を超え、増加傾向にあります。説明書はページ数が多いため、1件あたりのスキャン枚数は相当量になります」（診療録管理室課長補佐の市原直子氏）。続いて多い文書は、患者持参の紹介状・診療情報提供書（月間約4000件）、診断書や退院証明書など。また、入院診療計画書や看護記録などもスキャンされている。

スキャンされた文書は、患者ごとに

振り分けられ、同時に文書種別で区分されて文書管理システムに登録される。振り分けるための患者名・ID、文書種別などの情報は、各現場で発生時に付与される。電子カルテで作成・プリントされる文書は、各フォームのヘッダーに診療科・患者名・ID・文書種別などの情報が含まれたバーコードが付いている。外部から持ち込まれた文書は、これらの情報が含まれたQRコード付き仕切り紙を作成し、一緒にスキャンする運用となっている。

スキャン性能の向上を評価 作業効率の向上に寄与

インポートセンターでは6人の職員のうち4人が4台のfi-7700を使用し、残りの2人はトラブルなくスムーズに取り込めるよう前工程作業にあっている。具体的には、血糖自己測定値を記録する複写紙のような薄い文書、あるいは不規則な形状の記録紙などがフィーダーでスムーズに取り込まれるよう、A4用紙に貼り付ける作業だ。「様々な用紙であっても問題なく取り込める優秀なスキナーですが、大量のスキャン作業をしているので、できるだけ読み取りトラブルのリスクを減らすためです」（インポートセンター担当職員）という理由だ。

2023年にリプレースした最新後継機種に対する現場の評価は一様に高い。「スキャン速度の向上、1枚ずつ確実に読み取る安定した給紙など性能の



外来受付窓口はカウンターも狭く、コンパクトモデルの特長が十分発揮されている

向上は明らかです。以前は文書ヘッダーのバーコードにキズがあると読み取れないこともありましたが、現在の機種は多少問題があっても正確に読み取ってくれます」（診療録管理室主任の吉田友美氏）と、作業効率の向上に寄与しているという。

一方、外来受付での運用では、まず受付カウンターなど限られたスペースでも設置できるコンパクトさが評価されてきた。また、スキャンする文書は問診票や紹介状などで一度に大量のスキャンをすることはないものの、「様々な形状の文書でも読み込みの不具合が生じることは少なくなりました」（外来受付職員）と話す。

現在、すべての文書を文書管理システムでタイムスタンプ・電子署名を付して保存しているものの、紙の元文書はすべて保管している。「今後は一定期間の保管後、廃棄していく方向で検討しています。文書保管の法的課題の緩和、あるいはガイドラインで認められた手段などをタイムリーに取り入れ、現場のDX化を進めていきたいと考えています」（米山氏）と展望した。

RICOH fi Series

リコー エフアイシリーズ

デモ機無料貸し出し実施中

業種シェアは、KEYPOINT INTELLIGENCE「国内ドキュメントイメージスキャナー市場動向と予測」（2022年）に基づく。（業種シェアはドキュメントスキャナーベンダーおよび販売会社へのヒアリング結果からKEYPOINT INTELLIGENCE社が推定。Mobileセグメントは除く。）調査期間は2022年1月1日から2022年12月31日。



お問い合わせ

fiシリーズの詳細はこちら

株式会社 PFU
ドキュメントイメージング事業本部
MAIL : fi-mail@ml.ricoh.com

